

## 令和5年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

長坂台小学校	小学校教科推進校	道徳科
--------	----------	-----

## 1 研究の重点と具体的な取組

## (1) 重点1 自己を見つめる授業の工夫

①導入時：事前アンケートや身近な場面写真の提示を行うことによって、本時で扱う価値の方向付けを行い、身近な問題として捉えることができるようにした。また、展開後段や終末場面でもう一度アンケート内容に戻ることによって、自己の変容に触れたり今後の自分について深く考えたりできるようにした。



②展開場面：心の数直線や表情マークなど教具を工夫し、それに加えてそう考えた理由を加えて話をすることや、自己を振り返る際に、導入で扱った事前アンケートや身近な場面写真を活用した。また、保護者や友達から手紙をもらう等、振り返り方を工夫した。

## (2) 重点2 他の価値と出合う授業の工夫

①活動形態の工夫：昨年度の学校研究を生かし、学校全体の共通実践として、中・高学年ではペアやグループ活動、低学年では役割演技を積極的に取り入れ、より多くの友達の思いに触れることができるようにした。その際、互いの思いの理由を尋ね合うことによって多様な意見と出合えるようにした。ペアやグループ活動においては、ワークシートを用いたり、まなボードを用いてからワールドカフェ方式で交流したりするなど、児童や内容項目に合わせてより効果的な話し合い活動を行った。



②ICTの活用：テキストマイニングやオクリンクを使用することによって、一目で友達の捉え方を理解したり、多くの価値に触れたりできるような手立てをとった。自由交流の際に自分と似た考えの人と、異なった考えの人と、など児童が話を聞きたい相手を選んで交流できるようにした。



③板書の工夫：内容項目に合わせて、考えを対比できるように構造的な板書になるように授業研究を行った。「板書の交流」として、板書を写真に撮り、授業者の振り返りを記入し、教員同士で指導助言し合った。交流し合った板書シートは、全職員の見える場所に掲示し、参考にできるようにした。

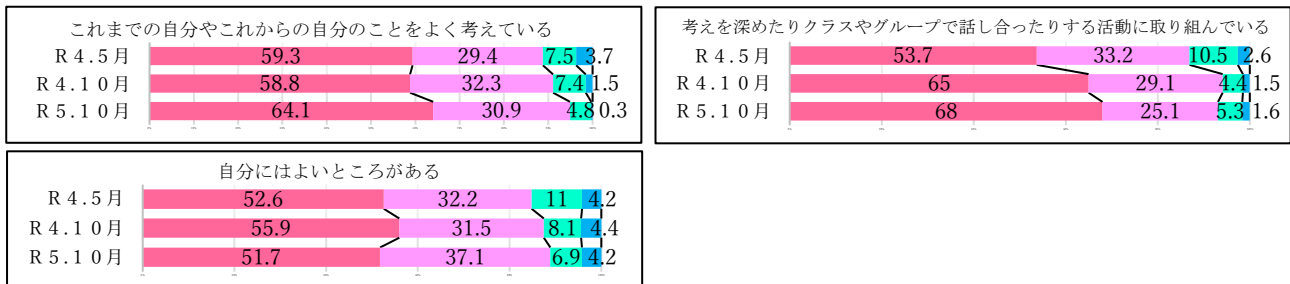


④教育活動全体の取組：日々の教育活動を、道徳の内容項目を意識して行うことで、教育活動全体を通して児童の道徳性を育んだ。

⑤道徳の掲示：昨年度に引き続き、「道徳の足あと」として、授業毎に課題、教材挿絵、児童が捉えた価値や振り返りを教室内のボードに掲示した。

## 2 取組の検証

昨年度5月、10月、今年度10月の児童アンケートを比較検討した結果、「道徳の授業で、これまでの自分やこれからの自分のことをよく考えている」の項目で6.3ポイント、「道徳の時間に、考えを深めたりクラスやグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」の項目で6.2ポイントの改善が見られた。これらから、道徳の授業において、これまでより自己を見つめ、他の価値と出会うための工夫が効果的になされていることが分かる。また、「自分にはよいところがある」の項目で4ポイントの向上が見られ、児童自身も自己肯定感を感じられているとの結果が得られた。



## 3 成果と課題

本研究から、自己を見つめ、他の価値と出会う授業の工夫を行うことで、児童に「様々な活動に意欲的に取り組む姿」「自分に自信をもって取り組む姿」「他との関わりをもとうとする姿」が見られ、「生き生きとした子」につながるということが分かった。

しかし、45分間という限られた授業時間の中で、児童が他者と関わり自己を見つめながら自分の思いを語り、十分な価値理解、他者理解、人間理解を得るには、教師が更なる授業研究を行う必要がある。また、ICTを用いるか紙を用いるかについてもその都度考えていく必要がある。教師自身が道徳的価値について、理解し、児童に考え議論させた点を明確に持ち、児童の発言への感度を高くすることが肝要である。そうすることで発問の吟味、精選、さらに問い返しにより深めていくことが可能となるのではないだろうか。

また、グループ活動の形態や振り返りの工夫についても、単なる意見交換だけに終わってしまわないよう、交流の目的を児童とも共有していくことが大切であり、役割演技などの取り入れ方にも留意し、どうすれば客観視して考えと出会うことができるのか考えていくことも今後の課題である。

さらに、学校の教育活動全体で児童の道徳性を育むことを大切にし、日常の生活と道徳科の授業をつなぎ、児童が自己を見つめ、他の価値と出会うことで、より生き生きとした学校生活を送れるようにしていきたい。